

## Q-25 体育の授業で予知・予見される怪我には、例えばどのようなものがあります

「注意義務」とは、学校教育活動について、児童生徒の生命や身体の安全を確保するために、監督者たる教職員に義務として要求される注意のことであり、個の注意義務に違反すること（注意義務を守っていないこと）が「過失」である。

注意義務は、「予見義務」と「予防義務」に分けて考えることができる。事故が発生するかもしれないという危険性を事前に予見・予想し、それに応じた指導をすべきであることが「予見義務」であり、危険を予見したなら、その危険を防止する行為をすることが「予防義務」である。この2つのいずれかに違反していることが注意義務違反<過失>である。

まずは教師が、けが防止のための答えをしっかりとっておきましょう。その上で、子どもたちに問いかけ、考えさせましょう。事故を予見する力を育てましょう。

キーワードは・・・

**「どんな危険が考えられますか？」**



参考資料

**「運動活動時等における安全の手引き」**

YCAN→教育委員会事務局

→Teacher's room→指導企画課

→学校体育より



跳び箱運動



Q, 台上前転(回転系)と同じ感覚で踏み切って開脚跳びやかかえ込み跳び(切り返し系)をすると、どうして危ないのかな？



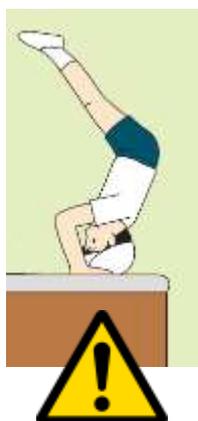
A, 台上前転(回転系)は腰がより高く上がる技だから、同じ感覚で踏み切って開脚跳びやかかえ込み跳び(切り返し系)をすると、跳び過ぎてしまって危ないのです。

回転系の技の後に切り返し系には取り組みません。

※単元計画を立てる際に、一時間の授業内で、回転系の技の後は切り返し系の技に取り組みないようにする。



Q, 台上前転で、頭の後ろではなく頭のてっぺんから着くとどうして危ないのかな？



A, 頭のてっぺんを着くと、跳び箱の上で頭立してしまい横に落ちたり、体重がかかって首を痛めたりします。

あごをひいて、体を腕で支え、頭の後ろから着くようにしましょう。



マット運動



Q, 普段から技以外でマットに乗ったり、マットを横切ったりしてはいけないのはなぜだと思いますか？

A, 見ている人がマット上に急に手足を出したり、横切ったりすると、試技中の人とぶつかってしまいます。普段から、技をする人だけがマットを使うことを徹底しましょう。



Q, アドバイスする人が座って見ているとどんな危険がありますか？



A, マットの近くに座っていると、試技中の人バランスを崩したときによけられません。立って見るようにしましょう。



Q, マット運動だけでなく、他にも近くで座って見ていたら危ない学習はありますか？

跳び箱も、鉄棒も、ベースボールもバレーボールも、他にもいっぱい。運動している人のすぐ近くで座って見ているのは危ないことなんだね！

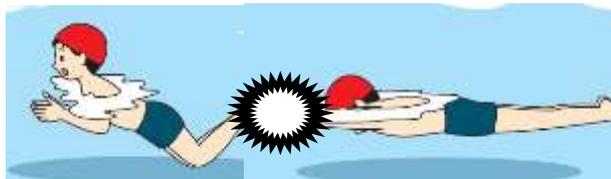


水泳



Q. 平泳ぎでは、前を泳いでいる人に近付くとどんな危険がありますか？

A. 平泳ぎのカエル足はかなり強い蹴りになります。もしぶつかってしまうと、顔(目や歯)に大きなけがを負います。  
近づいてしまったら、追い抜かずにはまりましょう。  
前の人が十分離れてからスタートしましょう。



Q. なぜ水泳では特にバディ(ペア)学習をするのでしょうか？

A. 水泳に限らず、どの学習でもペアで安全を確認し合うことは大切です。ただ、水中では呼吸ができないため、重大事故につながる可能性があり、特に安全確認が必要です。大人数で学習することが多いのも水泳学習の特徴です。

水中でも、プールサイドでも、こまめに体調を確認し合しましょう。

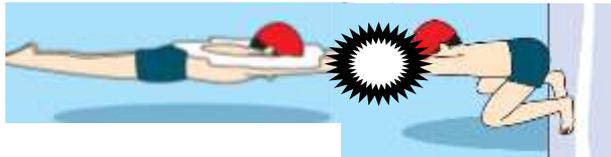




Q. 同じコース内で往復で泳いではいけないのはなぜですか？

A. ターン直後に正面衝突し、頸椎損傷の恐れもある非常に危険な事故の可能性があります。

※同コース内を複数人で往復で泳がせることをしてはいけません。



ボール運動 ベースボール型



Q. 打った後にすぐバットを放してしまうとどんな危険がありますか？  
どうすれば事故を防げますか？

A. すぐ後ろで見ている人にバットが飛んでいって当たってしまうかもしれません。

- ①ルールを決めましょう。バットを投げないように、打った後にバットを置く場所を決めておきましょう。
- ②待機場所を決めましょう。万が一手から抜けてしまう可能性を考え、待機位置を安全な場所にしましょう。



このように、打った後、バットをコーンに入れる方法もある

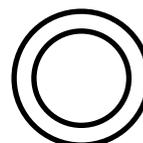
体づくり運動



Q, 長縄の回し手が、縄を手に巻き付けているとどんな危険があるでしょう。

A, 引っかかったときに、回し手は強く腕を引っ張られてけがをします。  
引っかかった人も、縄に強く引っ張られて転倒してしまいます。

回し手は、両手を使って縄に遊びをもたせ、引っかかったらすぐに縄を放せるようにしておきましょう。



教師が予知・予見できる怪我の事例をたくさん知っておきましょう。  
「運動活動時等における安全の手引き」に詳細が載っており、「YCAN→教育委員会事務局→Teacher's room→指導企画課→学校体育」で見ることができます。

#### 跳び箱運動・跳び箱を使った運動遊び

- ▲台上前転の際、頭が跳び箱に乗らず、手前に落下する。
- ▲うさぎ跳びの際、着手と突き放しが不十分なために顔から床に突っ込む。
- ▲馬跳びの際、馬となる児童が安定せずに、跳んだ児童がバランスを崩し落下する。
- ▲器具を運ぶ際に足の上に落とす。

#### マット運動・マットを使った運動遊び

- ▲かえるの倒立の際、体を支えきれず、顔や歯から床に突っ込む。
- ▲倒立の際、バランスを崩して受け身が取れないまま背中から落ちる。
- ▲前転系の技の際、頭頂部から着いてしまい、回転できずに倒れたり、首を痛めたりする。
- ▲壁倒立の際、体を支えきれず、頭からマットに落ち、首を痛める。
- ▲壁倒立の際、勢いの調節ができず、かかとを壁に強打する。

#### 鉄棒運動・鉄棒を使った運動遊び

- ▲体重を支えきれず落下する。
- ▲親指をかけない猿手のため落下する。
- ▲逆手で行うべき技を順手で行い落下する。
- ▲ひざ掛け系の技の際、ひざが外れて落下する。
- ▲鉄棒で頭を打つ。
- ▲逆上がり補助具が不安定なために倒れるなどの事故が起こる。
- ▲帯やタオルなどを使用した後方支持回転の補助の際に、指を巻き込むなどする。

#### ゴール型・バスケットボール

- ▲ボールを受け止められず、突き指や指の骨折をする。
- ▲必要以上にボールを追い、壁など周囲のものに衝突する。

#### ゴール型・サッカー

- ▲至近距離で強いボールを蹴られ、目や歯などを痛める。
- ▲サッカーゴールの固定が不十分で、倒れる。

#### ベースボール型

- ▲至近距離での強い打球に突き指する。
- ▲守備者と走者が衝突する。
- ▲飛び過ぎたボールを追いかけていて、別のチームの外野や、遊具等と衝突する。

#### ネット型

- ▲ボールによる突き指。
- ▲必要以上にボールを追い、壁など周囲のものに衝突する。
- ▲声を掛け合わないために他者と衝突する。
- ▲ボールなどの器具を運ぶ際に足に落とす。

#### 短距離走・かけっこ・リレー

- ▲走っている児童のレーンを横切り、衝突する。
- ▲バトンパスを終えた児童が急に走るのをやめて後ろから来た児童と衝突する。
- ▲内側から強引にぬかそうとして接触し転倒する。

#### ハードル走・小型ハードル走

- ▲ハードルに引っかかって転倒する。
- ▲倒れたハードルを直そうと横から入ってきた児童が、走っている児童と衝突する。

#### 走り幅跳び・幅跳び

- ▲場を横切った児童が助走している児童と衝突する。
- ▲砂場や着地点の先にレーキ、スコップ等が置いてあることで怪我をする。
- ▲砂場をまだ均していたり、計測をしていたりする状態なのに試技を始めてしまい、衝突する。
- ▲砂場が十分ほぐされていないために足を痛める。
- ▲砂場の淵が砂に覆われていてよく見えないために危険である。
- ▲踏み切り板を使った学習の際、砂で滑って転倒する。

#### 走り高跳び・高跳び

- ▲足の裏から順次着地できずに、転倒し怪我をする。
- ▲バーやポールの近くにいた児童に、失敗した際に飛んだバーや倒れたポールが当たる。
- ▲踏み切り板を使った学習の際、砂で滑って転倒する。

#### 表現運動

- ▲とんだりはねたりの予想外の動きで、他の児童と衝突する。

#### 屋外での活動

- ▲落雷等天候による事故。